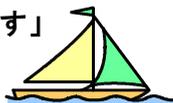




小値賀物語



令和2年10月21日発行

小値賀町立小値賀中学校

校長 池田英二

① 求めて学ぶ生徒 ② 心を高める生徒 ③ たくましい生徒

今回の小値賀物語第11話では、先日開催された市中体駅伝大会の様と小中高一貫教育として実施した「心の教育講演会」についてお知らせいたします。さあいよいよ「スポーツの秋 読書の秋 勉学の秋」の本番です。また、たいへん過ごしやすい季節です。自分の目標に向かって一日一日を充実させたいものですね。また、この時期、気温差がたいへん大きくなります。風邪などひかれないように、どうぞご自愛ください。

市中体駅伝大会終わる！（10月6日火曜日）男女のスタート！！



本校の選手は、夏休みから暑い中、長い距離を走り込むための練習を男子、女子一丸となって良く頑張ってきました。このような長期間の一生懸命な練習の結果、大会当日は、強風だったのですが、風に負けないような力強い走りが見られました。男女とも1つでも順位を上げようと走り、また他校に追いつかれても、食らいつくように必死に最後まで走っていました。

女子は1区の濱田さんが少しでも前と離れないように力走したので2区の森さんが順位を上げることができました。そして3区の伊藤さんが最後まで粘り、4区福崎さん、アンカーの内野さんが力強い走りで最後までよく力走しました。

男子は、各学校のエースが集まる1区の中、森君が速いペースに、良く耐えて走りました。2区の門田君は、しっかり前を追いかけ懸命に食い下がる走りことができました。3区の境君は、粘り強く一生懸命に走り、4区角永君につなげました。そして4区角永君が前の選手をとらえることができたので、5区の遠山君が順位を上げることができました。5区の遠山君は、後ろを振り返ることなく、前だけをしっかりと追って、はじめからダッシュするわけではなく、冷静な走りことができました。おかげでタイムを大幅に上げることができました。アンカーの川村君は最後まで順位を上げようと前の選手をしっかりと追うことができ、アンカーとしてのプレッシャーを感じつつも力強く走っていました。

このように、男女ともにベストを尽くして、一本のたすきに心を込めて頑張った市中体でした。選手の頑張りに、私はたいへん感動しました。この頑張りを是非ともこれからの学校生活と来年の活躍につなげてほしいと思います。

これまで応援して支えていただいた皆さんの声援に支えられ、男女ともに無事に走りきることができました。本当に、ありがとうございました。

○大会結果（女子：総合20位49分49秒 男子：総合24位1時間13分00秒）

心の教育講演会（10月13日火曜日）



令和2年度の小中高一貫教育の取組として、中学2年生から高校3年生を対象に、心の教育講演会を実施しました。この講演会の目的は、小中高一貫教育の「後期」における生徒の心の発達と他者とのコミュニケーションに必要な心の働きを学び、コミュニケーション能力の向上を目指すことです。講師の先生は、長崎県学校教育相談学会理事の松永博幸先生でした。

参加した生徒は5学年にわたりましたが、たいへんわかりやすい講演に、生徒全員が熱心に聞き入っていました。

「君のゆく道は～『時』は最良の友～」と題した内容で、人生80年間を1日24時間に換算し、中学2年生から高校3年生の生徒が今どの『時』にいるのか、そして何をなすべきなのかについてわかりやすく教えていただきました。松永先生の講話を通して、子どもたちにとって人生の準備段階にある「今という『時』」がどれほど大切なのかを考えるたいへん良い機会になりました。

ちょっといい話

落語家の林家たい平さんが述懐している。娘が小学校を卒業した2011年3月のこと。東日本大震災の影響で、卒業式は卒業生と保護者、教職員代表だけのささやかなものになった。

席上、校長先生が児童たちに語り掛けた。「人が一番うれしいと感じるのは、どういう時か知っていますか？」

「人を助けた時と、人から助けられた時です。」（『3・11を心に刻んで2019』岩波ブックレットより）

皆が先の見えない不安にいる中、たい平さんは、この言葉に深く救われたという。その後、「自分も誰かの、何かの助けになれば」との思いで被災地を回った。そうして結んだ縁が今、噺家としての支えにもなっていると語る。

誰かのため、今日の自分に何ができるのかを考え行動する自分でありたいものです。



